

埼玉トヨペット



Green Brave

NEWS



2014年7月26日(土)・27日(日) 富士スピードウェイ(静岡県小山町)

スーパー耐久シリーズ2014 第3戦 富士スーパー耐久7時間レース

前戦の悔しさをバネに最長7時間レースを完走 ベテランドライバーとの仕事も貴重な経験に

決勝結果

ST-4クラス 7位

52号車 埼玉トヨペット GreenBrave

ドライバー

番場 琢選手/服部 尚貴選手

平沼 貴之選手/脇阪 寿一選手



日本代表するトップドライバー服部尚貴選手から脇阪寿一選手へチェンジ

<7月24・25日>練習日……………7時間の決勝に向けたルーティーンワークをスタート

チームはこれまで通り木曜日にサーキット入り。平沼選手の52号車ドライブからプログラムをスタートした。今回参加したスタッフはこれまでの最多17名(ドライバー4名、サービスエンジニア8名、モータースポーツ室5名)。シリーズ最長の7時間レースに加えて、開幕戦以来のGAZOO Racing 86/BRZ Raceとのダブルエントリー(平沼選手がドライバーを務める)というのがその理由だが、トピックはなんといってもスーパーGTを代表するベテランドライバー、脇阪寿一選手の参戦。昨年の第3戦以来の加入で、スタッフの士気は高まるばかり。



脇阪選手(右)がチームに加入。ドライバー同士で情報を共有しつつ作戦を練る

与野支店・種村エンジニア(右)が加入し、計8名のサービスエンジニアが参加



エンジニアも新たに与野支店から種村エンジニアが加入し、前戦リタイアの悔しさを晴らすべく、万全の態勢で第3戦を迎えた。木曜日は平沼選手のみが走行し、マイルージを稼ぐ。金曜日からは3人のドライバーが加わり、前戦のリタイア原因となったミッションの修復状況と、事前に施してきた富士用セッティングの確認を行った。7時間レースでマシンの信頼性を証明し、開幕戦以上のリザルト(5位)を残すためだ。

<7月26日>予選……………ホンダ勢の後塵を拝するも上位フィニッシュ可能な位置に

予選日の天候は晴れ。太陽がアスファルトをジリジリと照らし続け、猛烈に暑い。富士のコースに合わせたセッティングに加え、高い路面温度にマッチさせるタイヤマネージメント技術が求められる。11時20分、Aドライバー番場選手の公式予選がスタート。ST-4クラスのランキング上位勢にまじって、積極的にアタックを行ない、1分58秒906をマーク。12時からは、Bドライバー服部選手の公式予選。「完璧ではない」と言うものの、クリアラップのタイミングを見計らってきっちりアタックを行ない、1分58秒833をマーク。合算タイム3分57秒739で、予選8番手につけた。



ピットウォークでのファンサーブもチームの大事な仕事。エコバックを配布

予選終了後、エンジン総出で夜遅くまでピットワークの確認を行う



上位は予選4番手のGAZOO Racing SPIRIT86をのぞき、すべてホンダ車。速いストレートスピードがホンダ車の強みで、86勢にはやや不利な状況。しかし、決勝レースは長い長い7時間。目標とする上位フィニッシュは十分達成可能なポジションからのスタートとなった。その後、Cドライバー平沼選手、Dドライバー脇阪選手がそれぞれ走行を行い、この日のセッションは終了。予選後は念には念を入れてのミッションの交換やピットワークの練習を行い、本番に向けての問題点の洗い出しをスタッフ総出で行った。

<7月27日>決勝……………予選順位より1つポジションを上げ、7位でチェッカー

決勝日の天候は曇り。直射日光がない分、予選日よりはすごしやすい。朝8時半からフリー走行がスタート。52号車は番場選手のドライブによりST-4クラス3番手のタイムをマーク。仕上がりは順調のようだ。フリー走行終了10分後には、埼玉トヨペットGreen Brave名物のピットウォーク開始。決勝レースが7時間という長丁場のためスタート時間がいつもより早い。



スタート前、グリーン埼玉トヨペット応援団がスタンドに陣取りエールを贈る

10時25分、スタート進行開始。番場選手がコックピットに身を沈め、8番グリッドに向かう。決勝レースは番場→平沼→服部→脇阪とつなぎ、最後にもう一度番場選手が乗る作戦。順調に行けば今回が実質的な富士でのスーパー耐久デビューとなる平沼選手は1時間前後乗る計算。大応援団も駆けつけ、ピットには緊張感が溢れている。

ホンダ勢と争いながらもクリーンなスタートを決める番場選手



11時00分、決勝レースがスタート。オープニングラップを終え、8番手でホームストレートに戻ってくる。前後はホンダ勢だが、ムリに仕掛けることはせず、淡々と周回を重ねる。番場選手は約2時間に渡って走り続け、ライバルのピットインもあり3番手まで浮上。平沼選手に交代するが、ここでピットレーン速度違反の裁定が下る。番場選手のピットイン時に制限速度を超えてしまったからだが、平沼選手は落ち着いてドライブスルーペナルティをこなす。その後はホンダ勢とコースのあちこちでバトルを繰り広げ、無事約1時

間のパートを走り切る。服部選手、脇阪選手の両ベテランドライバーは、危なげない落ち着いた走りを展開。エンジンによるピットワークもスムーズで、最後は再び番場選手にステアリングを託し、予選順位からひとつポジションを上げた7位でチェッカーを受けた。

シリーズ最長の7時間レースで完走を果たし、安堵するスタッフたち。実はこれまでドライでの完走経験がほとんどないという事実が、その気持ちをより高ぶらせていた。目標とする上位フィニッシュは次戦以降に持ち越したが、ベテランドライバーたちとの仕事を体験し、またひとつ大きな壁を乗り越えたスタッフ全員の表情は自信に溢れていた。



初めてのドライブスルーペナルティを落ち着いてこなす平沼選手

VOICE FROM DRIVERS

今回得たデータを分析し、何が良くて悪かったのかをきちんと見直したいと思います。ペナルティを受けたことは反省しています。ベテランドライバーと共に戦った4日間は、チームにとって結果以上のものがあつたと思います。次のレースでの糧にしたいですね。



(番場 琢選手)

7位というリザルトには納得していません。完走は当たり前で、表彰台に行かなければならないと考えています。次戦の岡山は富士より86に向いていると思いますが、次回までにいろいろと考え、詰まなければならぬ部分がたくさんあると感じています。



(服部 尚貴選手)

初めて連続で1時間乗りました。去年の富士ではフリー走行と予選しか走っていないので、進歩していると思います。レース中、何度かホンダ勢をパスする場面もあり、レースになってきたと思います。応援団の方にパワーをもらっているおかげですね。



(平沼 貴之選手)

平沼選手の熱意とスタッフの真剣さには驚きました。チームのベースができていり、モチベーションも高いと思います。スタッフそれぞれがステップアップしていけば、結果はついてくると思います。スケジュールが合えば次回もぜひ参加したいですね。



(脇阪 寿一選手)